

## 習志野市ALT紹介3 リー・ブラックウッドさん

### “ゲーマー”先生は生徒たちのオニイサン

長身、イケメン。こんな青年が中学校の教室にいきなり現れたら、生徒たち、さぞキャーキャーザワザワだったのでは？

リー・ブラックウッドさん。ALT（外国語指導助手）として、昨年4月、姉妹都市タスカルーサから派遣されてきました。これまで市内公立中学校のうち一中、四中を回り、現在は五中で教えています（2016年1月現在）。「教えることはとても楽しいです。特に中学生は。小学生を教えるのも面白いですが、彼らはまだ自分の意見があまりないでしょう？でも中学生は、“アメリカではこうだ”と何か一つこちらが言うと、“エ～、そうなの？”“どうして？”“いつもそうなの？”と、質問がすぐ返ってくる。そして、“それはとてもいいと思う”とか“日本ではこうだ”とか、自分の感想や意見を自分で考えて、話している中でだんだん言えるようになる。そこが、教えていて楽しいところですね」。

アラバマ大学で国際関係と日本語を専攻。途中、大阪の関西外語大学に1年2カ月間留学、日本語を学びました。その間、アラバマ大学で出会った日本人留学生と、19歳で結婚しました。

初めて日本に来た時の第一印象は、「狭いこと！（笑）」。「部屋も電車も、なんでも狭くて驚きました」とニッコリ。「長い列に並ぶ人が多いのにも、驚きました。チケットの列とか、評判の店とか。辛抱強いですね。アメリカで

は、そんなに待たない人が多いです」。

習志野の印象は、「静かで落ち着いている。空気もきれいで、ナイスです！」。

大阪や東京といった大都市に住んだ経験もありますが、「習志野の人はフレンドリー、親しみやすいです。大都市では、人々はお互い“関係ナイ”という感じでしたが。こちらでは、歩いていると知らない人からも“こんにちは”“ハロー”と気さくに声がかかります。それがきっかけで、見知らぬおじいさんと話がはずんだことも」と、笑います。

通勤はもちろん、どこに行くにもクロスバイクを愛用する行動派。その一方、オンラインゲーム（複数の人が同時に参加して行うコンピューターゲーム）が大好きという、自称“ゲーマー”（コンピューターゲーム愛好家）。中学生たちにとってリーさんは、よき先生であり、話の通じる素敵なオニイサンでもあるようです。

（インタビュー 佐藤洋子／広報青年部会）



リー・ブラックウッドさん